

第15回岐阜大学臨床セミナー 教育講演

期日：2009年4月26日(日) 15:00~18:00

場所：岐阜大学応用生物科学部1階・応用生物科学部多目的ホール(旧101講義室)

<http://www1.gifu-u.ac.jp/vethsptl/>

犬と猫の歯根・根尖周囲の疾患

— 口腔鼻腔瘻と根尖周囲病巣の診断と治療 —

渡邊 一弘

岐阜大学応用生物科学部獣医外科学研究室

※岐阜大学臨床セミナー(参加無料)は、次回から開催日程が木曜日夜から日曜日午後に変更されます。

はじめに

歯周炎は、歯肉辺縁だけの疾患ではなく歯根の奥深くにまで達する歯肉、歯槽骨、歯根膜、セメント質といった歯周組織全体の疾患である。日常の診療において、鼻汁やくしゃみ、眼窩下の腫脹や排膿などの症状に遭遇する機会は多く、このような臨床症状が歯周炎に起因していることは少なくない。今回は、歯周炎が重度に進行した疾患として口腔鼻腔瘻と根尖周囲病巣をあげ、その病態と臨床症状、さらに診断法、治療法について述べる。

口腔鼻腔瘻

上顎歯の歯周炎によって上顎歯槽骨が吸収されて鼻腔に達すると、口腔と鼻腔の間が交通して口腔鼻腔瘻となり、くしゃみや鼻汁といった症状が現れる。口腔鼻腔瘻の多くは、上顎犬歯と前臼歯の鼻腔と隣りあっている歯根周囲に生じ、とくに犬歯の垂直性骨吸収に起因することが多い(図1)。

上顎犬歯、前臼歯、後臼歯の歯根の位置と口腔鼻腔瘻

上顎犬歯の歯根は頬側よりも鼻腔側に近く、歯根と鼻腔の間にはほとんど骨が存在しない(図2,3a)。また、前臼歯では、第1前臼歯~第3前臼歯の歯根までと、第4前臼歯の近心口蓋根のみが鼻腔と隣りあう(図3a~3c)。しかしながら、第4前臼歯の近心頬側根および遠

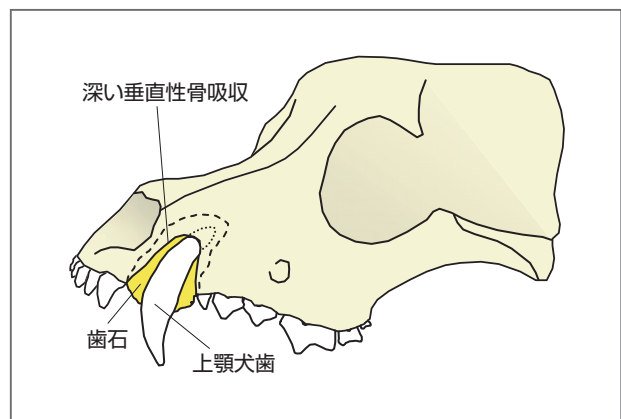


図1 上顎犬歯の垂直性骨吸収

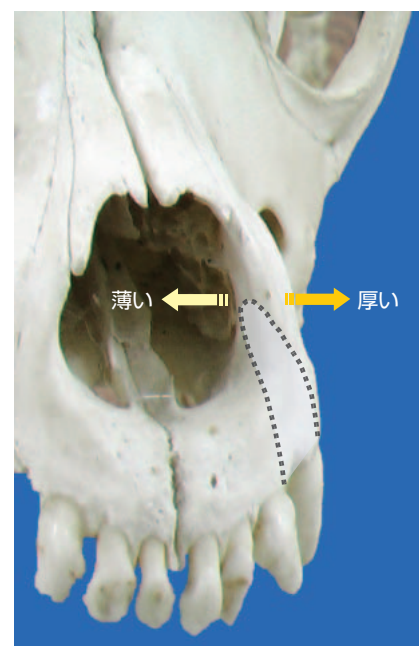


図2 上顎犬歯歯根と骨の位置関係

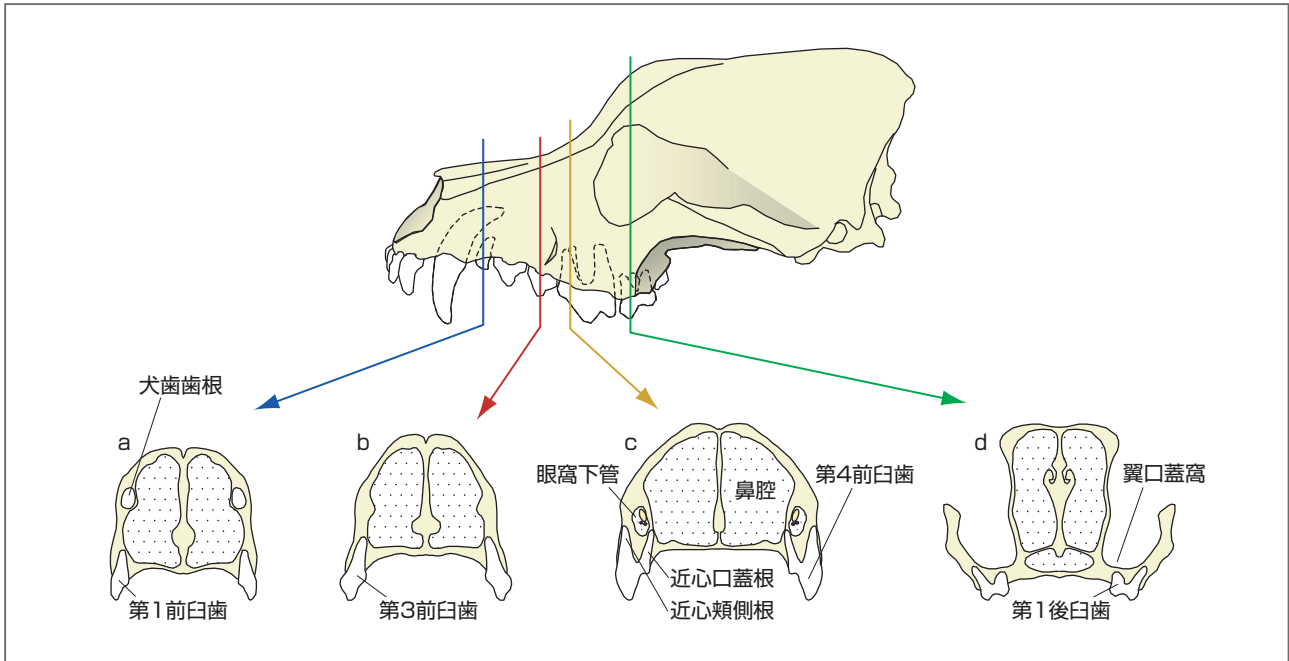


図3 上顎の犬歯，前臼歯，後臼歯の歯根と鼻腔の位置



図4 口腔鼻腔瘻の臨床症状
口腔鼻腔瘻が認められた右側と同側の鼻孔からの鼻汁排出（▶）と眼脂（▶）が認められる。

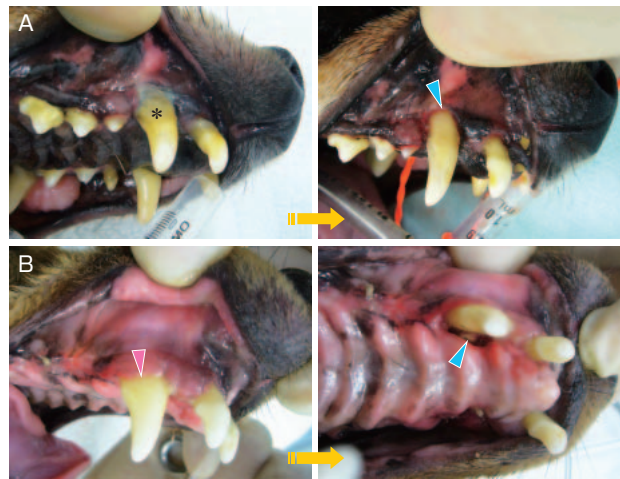


図5 口腔鼻腔瘻にみられる上顎犬歯の歯周炎
A：犬歯頬側に歯石沈着（*）が認められる。歯石除去により歯肉退縮（▶）を明らかにできる。
B：犬歯頬側には歯石沈着および歯肉退縮（▶）が認められないが，口蓋側に深い垂直性骨吸収（▶）が認められる。

心根と，後臼歯の歯根は，眼窩下管や翼口蓋窩があるため，鼻腔とは隣りあわない（図3c,3d）。歯根と鼻腔が隣りあっているという位置関係が，口腔鼻腔瘻の発生要因の1つとなる。

診断

口腔鼻腔瘻の診断は，臨床症状，口腔内検査，X線検査によって行う。臨床症状としては，くしゃみや鼻汁排出がみられるほか，鼻出血や眼脂が認められることもあ

る（図4）。口腔内検査では，歯石沈着，歯周ポケットの拡大，歯肉退縮，歯の動揺といった歯周炎の所見が認められる。上顎歯の頬側に重度の歯周炎が認められる場合（図5A）は，上唇をめくると容易に診断できるが，頬側に必ず歯周炎が認められるわけではなく，上顎歯の口蓋側に鼻腔に通じる深い垂直性骨吸収（図5B）が認められることも少なくない。また，歯石沈着が軽度で歯肉退縮や動揺が認められなくても，上顎歯の口蓋側歯肉辺縁をプロービングすることで深い歯周ポケットが